

■菜園の冬越し、いろいろな工夫で長く収穫を楽しむ

園芸研究家 ● 成松次郎

寒さに向かい、冬野菜の収穫や越冬させる野菜の防寒対策など、大切な作業が控えています。

冬の晴夜には地面や野菜から熱が奪われ、急激に温度が下がります。これを放射冷却といい、寒害を起こすことがあります。

【被覆資材で防寒】

トンネルや不織布のべた掛けは、防寒効果が高いので、上手に使いましょう。ただし、トンネルの密閉は日中に気温が上がり、軟弱に育ってかえって耐寒性を低下させます。穴開きフィルムの利用や裾を少し開けておいても防寒効果があります(図1)。

【身近な材料を使う】

北風を防ぐだけで、野菜周辺の気温を高める効果があります。畝を東西方向に作り、畝の北側は10cm程度に土を盛ると良いでしょう。ササタケを畝の北側に野菜を覆うように斜めに立てる方法は、先人の知恵です(図2)。

【土寄せなどの工夫】

ダイコン、カブ、ニンジンなどは、地上に出ている肩に土寄せして寒害を防ぎます。ハクサイやカリフラワーは、外葉の葉を内側に縛って包みます(図3)。イチゴ、エンドウは株元に落ち葉や刈り草を敷いて防寒します。

【保存・貯蔵】

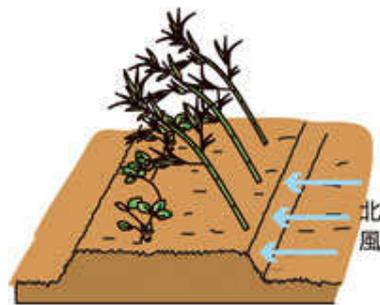
キャベツ、ハクサイを畑や庭で保存するには、株をぴったり並べ、わらや落ち葉で覆い、その上にむし

図1 被覆資材を使う



穴開きフィルムのトンネル

図2 身近な材料を使う



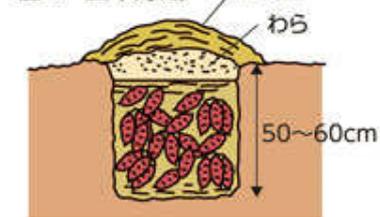
ササタケを畝の北側に斜めに立てる

図3 いろいろな工夫



ハクサイとカリフラワーは外葉を縛っておく

図4 土中貯蔵



サトイモ、サツマイモ

ろを掛けておきます。雪の多い地方では、ビニールなどで屋根掛けします。ダイコン、ニンジン葉を切り落とし、深さ 30cm くらいに埋(い)け込みます。

サトイモ、サツマイモは、排水の良い所に深さ 50~60cm の穴を掘り、サトイモでは子芋、孫芋を崩さないように逆さに埋け、サツマイモは芋づるを付けたまま埋けて、30cm くらいに盛り土して、上をシートで雨よけします(図 4)。なお、温暖地では、芋類は発泡スチロールのトロ箱に入れ、冬の利用に備えます。また、サトイモは畑から掘り上げなくても、土を厚く掛けておけば、十分冬越しできることもあります。

※関東南部以西の平たん地を基準に記事を作成しています。